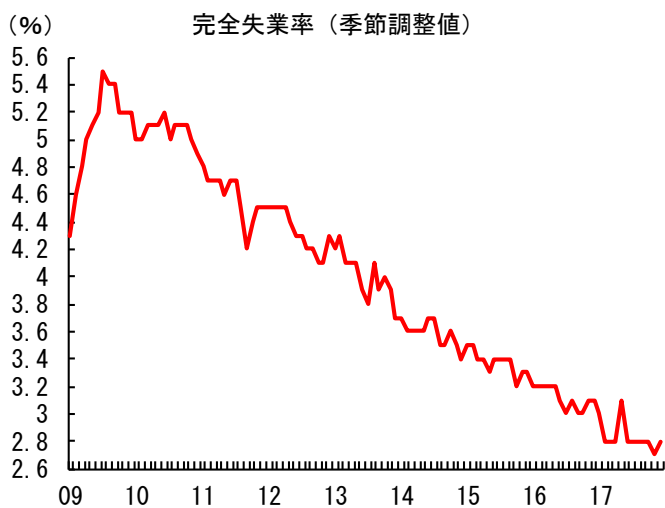


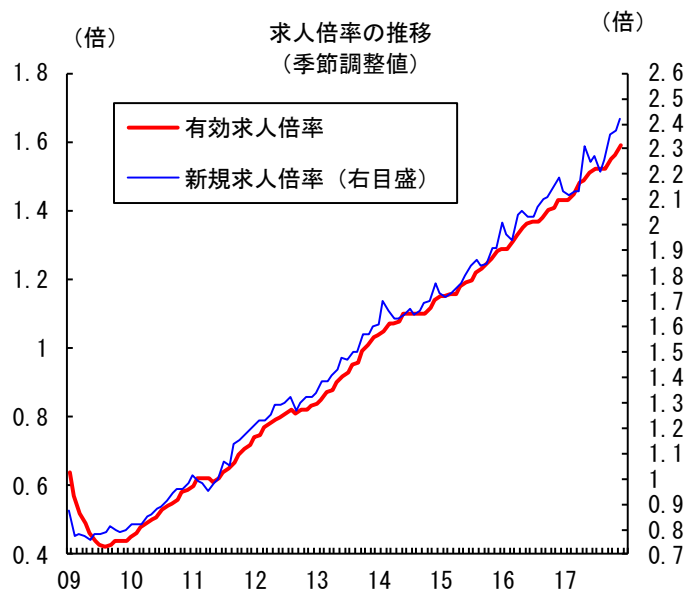
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2017年12月） 発表日：2018年1月30日（火）
 ～正社員の求人が大きく改善～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 雇用は着実に改善

総務省から発表された2017年12月の完全失業率は2.8%と、前月から0.1ポイントの上昇となった（市場予想：2.7%）。もっとも、下二桁までみると12月は2.76%と、11月の2.74%からほぼ変わっておらず、5ヶ月連続の2.7%台となっている。労働需給が非常に引き締まった状態にあることが確認できる。また、季節調整済みの就業者数は前月差▲7万人（11月+14万人）、雇用者数も前月差▲17万人（11月+16万人）と、前月からやや悪化しているが、これは前月に伸びた反動の面が大きいだろう。後述のとおり求人の明確な増加傾向が続いていることもあり、引き続き雇用は着実な改善傾向にあるとみて構わない。

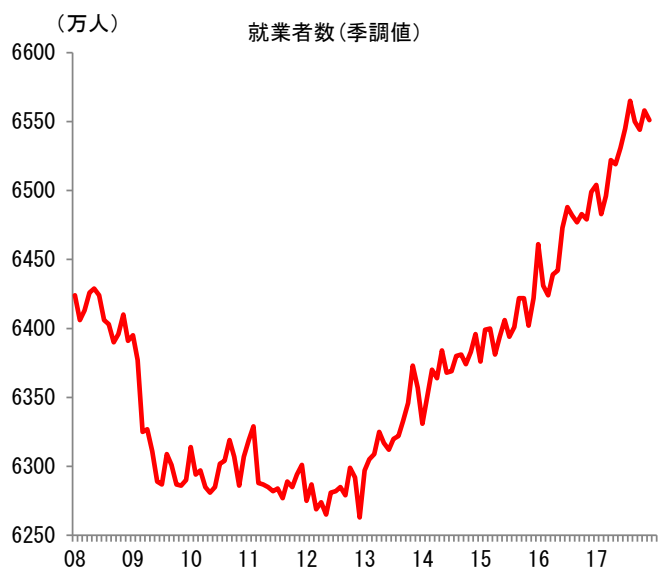
○ 正社員の求人が急ピッチで改善

厚生労働省から公表された17年12月の有効求人倍率は1.59倍と、前月から0.03ポイントの改善となった（市場予想：1.57倍）。これでバブル期のピークである90年7月の1.46倍を9ヶ月連続で上回り、1974年1月（1.64倍）以来の高水準となっている。また、新規求人倍率も2.42倍と、前月から0.05ポイント上昇した。新規求人倍率はこのところ上昇ペースが速かったため、今月は反動が出てもおかしくなかったが、予想外の大幅上昇となっている。

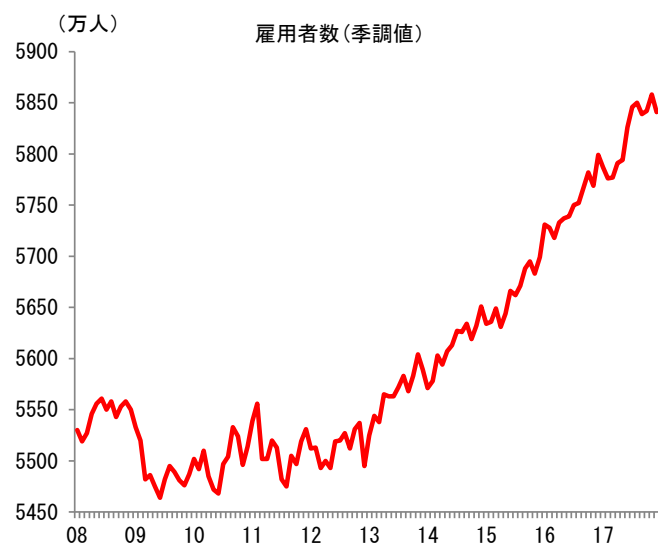
また、正社員の有効求人倍率も1.07倍と、前月から0.02ポイント上昇し、2004年11月の集計開始以来の過去最高水準を更新した。これで7ヶ月連続の1倍超えである。また、正社員の新規求人倍率も1.58倍と前月から0.04ポイント上昇となった。17年8月に1.43倍となったあと、わずか4ヶ月で0.15ポイントもの改善となっており、正社員の労働需給がこのところ早いペースで改善していることが確認できる。

そのほか、企業の求人意欲を示す求人数（季節調整値）みても、有効求人数が前月比+1.8%（11月：

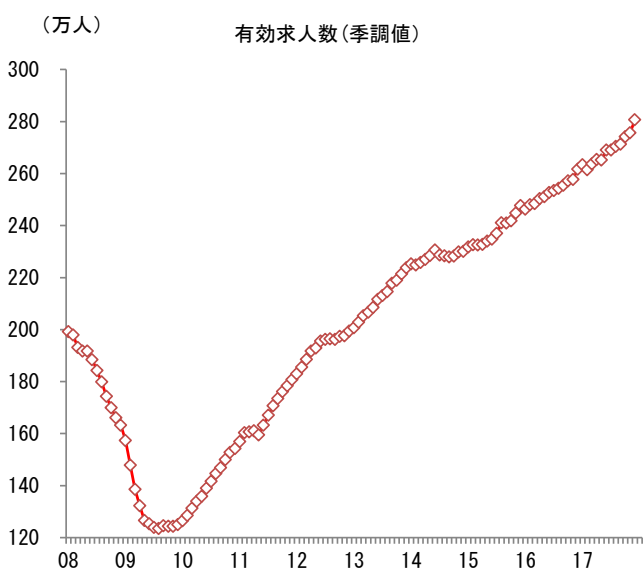
0.6%)と5ヶ月連続の増加、新規求人数が+3.9% (11月: +2.4%)と2ヶ月連続の増加となっている。ともに高い伸びであり、特に新規求人数は2ヶ月連続で非常に強い。求人は明確な増加傾向にあり、企業の求人意欲が旺盛であることが確認できる。雇用者数の動きに先行する求人数が改善傾向を続けていることからみて、先行きも雇用情勢は堅調さを維持するとみられる。失業率も2%台での推移が続く可能性が高い。



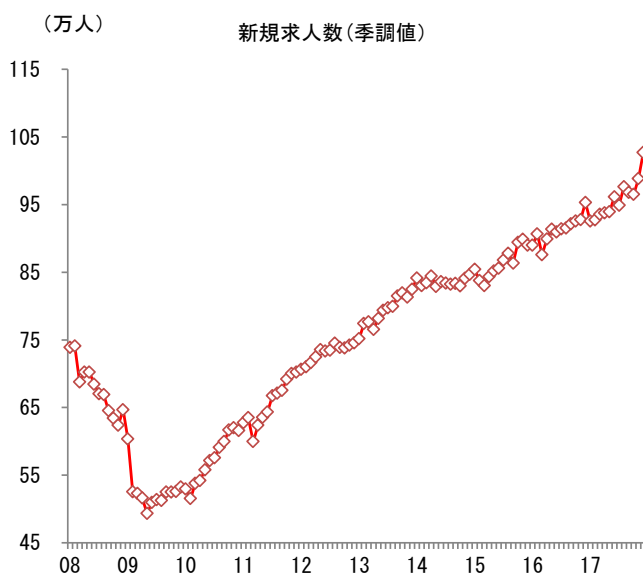
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」